

令和4年度実施施策に係る政策評価の事前分析表

(内閣府4-24)

政策名及び施策名	政策名「迎賓施設」 施策名「迎賓施設の適切な管理・運営」	担当部局・作成責任者名	内閣府迎賓館 接遇課長 荒池 克彦 運営課長 高妻 博之 京都事務所運営課長 後藤 大介
施策の概要	迎賓館は、内閣府設置法に基づき、迎賓館赤坂離宮と京都迎賓館を利用して、国賓・公賓及びこれに準ずる賓客に係る公式行事・宿泊等の接遇を行うとともに、平成28年度からは「観光先進国」の実現に資するため、接遇等に支障のない範囲で可能な限り、通年で一般公開を実施。また、迎賓館を歴史的建造物、文化施設等で、特別感や地域特性を演出できる会場(ユニークベニュー)として活用する「特別開館」も実施。	事後評価実施予定時期	令和5年度(1年目評価) 令和9年度(最終年度評価)

施策目標	<ul style="list-style-type: none"> ・国として国際儀礼を尽くし、最高のおもてなしを行い、日本の外交に資するものとする。 ・迎賓館の一般公開等を通じて、我が国及び迎賓館の魅力を内外に発信することにより、迎賓施設としての意義及び迎賓館赤坂離宮の文化財としての価値、京都迎賓館が有する伝統技能等の価値についての理解を促進する。 									
施策目標の設定の考え方・根拠	「迎賓館運営大綱について」(昭和49年7月9日:閣議了解) 「明日の日本を支える観光ビジョン」(平成28年3月30日:明日の日本を支える観光ビジョン構想会議決定) 「観光立国推進基本計画」(平成29年3月28日:閣議決定) 等を踏まえて目標を設定。									
中目標1	賓客が安全・快適な施設に満足する									
測定指標1 【主要な測定指標】	接遇中に発生した不具合等の件数					測定指標の選定理由	当該中目標を達成するため、迎賓館が迎賓施設としての責務を果たしているかの裏付けとなることから、施策の進捗状況を測定する指標として設定。			
	目標値(目標年度)	0件 (R8年度)	年度ごとの目標値	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	目標(値・年度)の設定の根拠	接遇中に不具合が発生することはあつてはならないため0件とした。
	基準値(基準年度)	赤坂:0件 (R3年度) 京都:0件 (R2年度)	年度ごとの実績値						測定指標の実績値の把握方法	賓客または招聘機関からの申出及び迎賓館の認知により把握。
参考指標1	賓客の接遇に際して、施設の使用ニーズに対応できた割合					参考指標の選定理由	当該中目標を達成するため、迎賓館が迎賓施設としての責務を果たしているかの裏付けとなると考えられることから、参考指標として設定。			
	参考値(参考年度)	赤坂:100% (R3年度) 京都:100% (R2年度)	年度ごとの実績値	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	参考指標の実績値の把握方法	賓客または招聘機関からの申出及び迎賓館の認知により把握。

中目標2	参観者が迎賓館の価値を理解する											
測定指標2	一般公開における参観者のうち、アンケートで「やや不満、不満」と答えた人の割合										測定指標の選定理由	当該中目標を達成するためには、運営体制や設備等への不満を可能な限り解消し、参観の環境を整備することが重要であることから、施策の進捗状況を測定する指標として設定。
	目標値 (目標年度)	2%以下 (R8年度)	年度ごとの 目標値	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	目標(値・年度)の 設定の根拠	過去5年間の実績値の平均(2.1%)を下回る数値を今後5年間の目標値として設定。		
	基準値 (基準年度)	赤坂:2.1% 京都:2.1% (H29~R3年度平均)	年度ごとの 実績値	赤坂:2%以下 京都:2%以下	赤坂:2%以下 京都:2%以下	赤坂:2%以下 京都:2%以下	赤坂:2%以下 京都:2%以下	赤坂:2%以下 京都:2%以下	測定指標の実績値 の把握方法	一般公開における参観者アンケート調査		
測定指標3 【主要な測定指標】	参観等を通じて、迎賓館の迎賓施設としての意義及び迎賓館赤坂離宮の文化財としての価値、京都迎賓館が有する伝統技能等の価値を感じることができた参観者等の割合										測定指標の選定理由	当該中目標を達成するためには、参観者に迎賓館に対する理解度を確認した上で参観運営に反映していく必要があることから、施策の進捗状況を測定する指標として設定。
	目標値 (目標年度)	検討中 (R8年度)	年度ごとの 目標値	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	目標(値・年度)の 設定の根拠	令和4年度末までに現状把握のための調査を実施し、その結果を踏まえて目標値を設定。		
	基準値 (基準年度)	検討中 (R4年度)	年度ごとの 実績値						測定指標の実績値 の把握方法	一般公開における参観者アンケート調査		
参考指標2	一般公開における1日当たり参加者数の平均										参考指標の選定理由	当該中目標を達成するためには、多くの方に参観していただくことが重要であることから、参考指標として設定。(オーバーツーリズム等の観点を踏まえ、一般公開における適切な参観者数については、引き続き検討)
	参考値 (参考年度)	赤坂:345人 京都:104人 (R3年度)	年度ごとの 実績値	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	参考指標の実績値 の把握方法	参観者数の集計結果による		
参考指標3	外国人参観者数										参考指標の選定理由	当該中目標を達成するためには、多くの外国人に参観していただくことが重要であり、インバウンドの推進にも資することから、参考指標として設定。(オーバーツーリズム等の観点を踏まえ、一般公開における適切な参観者数については、引き続き検討)
	参考値 (参考年度)	赤坂:1,512人 京都:100人 (R3年度)	年度ごとの 実績値	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	参考指標の実績値 の把握方法	外国人参観者数の集計結果による		

参考指標4	2回以上参観したことのある参観者の割合							参考指標の選定理由	当該中目標を達成するためには、迎賓館を複数回参観していただくことにより、季節や時間帯等に 応じた魅力を更に感じることもできるとともに、迎 賓館への理解を一層深めていただくことができる ことから、リピーターの状況を把握する参考指標と して設定。	
	参考値 (参考年度)	赤坂:12.5% 京都:8.6% (R3年度)	年度ごとの 実績値	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	参考指標の実績値 の把握方法	一般公開における参観者アンケート調査
中目標3	迎賓館赤坂離宮・京都迎賓館に対する関心の向上									
参考指標5	迎賓館赤坂離宮及び京都迎賓館のHP閲覧数							参考指標の選定理由	情報発信の主要なツールであるHPの閲覧数は、 迎賓館に対する関心の度合いを測る指標になると 考えられることから、参考指標として設定。	
	参考値 (参考年度)	赤坂:2,573,139 京都:628,548 (R3年度)	年度ごとの 実績値	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	参考指標の実績値 の把握方法	迎賓館赤坂離宮と京都迎賓館のHPのそれぞれの 総閲覧数
参考指標6	特別開館のHP閲覧数							参考指標の選定理由	特別開館に関する情報発信の主要なツールであるHPの閲覧数 は、特別開館に対する関心の度合いを測る指標になると考えら れることから、参考指標として設定。	
	参考値 (参考年度)	赤坂:44,918 京都:13,962 (R3年度)	年度ごとの 実績値	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	参考指標の実績値 の把握方法	迎賓館赤坂離宮と京都迎賓館HP内の特別開館 のページの閲覧数
参考指標7	特別開館の実施件数							参考指標の選定理由	特別開館は迎賓館の魅力の内外への発信、理解 の促進等を目的としているものであり、実績の積 み重ねが迎賓館に対する関心の向上につながる と考えられることから、参考指標として設定。	
	参考値 (参考年度)	赤坂:0件 京都:0件 (R3年度)	年度ごとの 実績値	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	参考指標の実績値 の把握方法	特別開館を実施した件数

	施策に関連する主な内閣府事業 (開始年度)	関連する中目標・ 令和4年度行政事業レ ビュー事業番号	予算額 (執行額) ※単位:百万円					事業概要
			R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	
1	赤坂迎賓館参観経費 (平成28年度)	中目標2、3 0133	639					国賓等の接遇等に支障のない範囲で通年での一般公開を実施する。また、旅行者との意見交換等を通じニーズの把握を図りつつ、館の魅力を一層引き立て、より広く一般の興味・関心を引き起こす特別企画を検討実施する。
2	京都迎賓館参観経費 (平成28年度)	中目標2,3 0134	243					国賓等の接遇等に支障のない範囲で通年での一般公開を実施する。また、旅行者との意見交換等を通じニーズの把握を図りつつ、館の魅力を一層引き立て、より広く一般の興味・関心を引き起こす特別企画を検討実施する。
		施策の予算額 (執行額)	882					

	施策に関連する内閣の重要施策 (施政方針演説等のうち主なもの)	年月日	関係部分抜粋
1	明日の日本を支える観光ビジョン	平成28年3月30日 明日の日本を支える観光ビジョン構想会議決定	視点1 観光資源の魅力を極め、地方創生の礎に ■「魅力ある公的施設」を。ひろく国民、そして世界に開放 ー「技」の粋がつくされた日本ならではの空間を世界にー ○赤坂や京都の迎賓館をはじめ、我が国の歴史や文化に溢れる公的施設を、大胆に、一般向けに公開・開放し、観光の呼び水とします。
2	観光立国推進基本計画	平成29年3月28日 閣議決定	第3 観光立国の実現に関し、政府が総合的かつ計画的に講ずべき施策 1. 国際競争力の高い魅力ある観光地域の形成 (二)観光資源の活用による地域の特性を生かした魅力ある観光地域の形成 ② 文化財に関する観光資源の保護、育成及び開発 オ 魅力ある公的施設の公開・開放 我が国の歴史や伝統にあふれる公的施設の公開・開放を行い、日本の「粋」が尽くされた日本ならではの空間を世界に発信する。 具体的には、赤坂や京都の迎賓館について、接遇等に支障のない範囲で、通年での一般公開を実施するとともに、ユニークベニューとしての活用を図る「特別開館」を実施し、観光の呼び水とする。また、皇居をはじめとする皇室関連施設等その他の公的施設についても、観光資源として価値のあるものについて、積極的に公開を行い、引き続き公的施設の更なる公開・開放の検討を行う。